あゆみ通信

VOL.109
あゆみの会（真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会）
会長　浪花　博
広報　本持　喜康

ご本尊をいのちとして共歩む

新年のご挨拶

あゆみの会会長　浪花　博

あけましておめでとうございます。あゆみの会は発足以来10年を迎えます。これもひとえに歴代の組長さんを始め多くの方々の支援と、会員各位の努力のたまものであります。新しく第4期の推進員養成講座修了者7名を仲間に迎え総勢37名になりましたことはまことに喜ばしい次第です。

本年も推進員として尚一層、自ら聞法に励むとともに、同朋の輪を広げる努力をすすめたいと思います。

昨年の本山での後期教習にスタッフとして参加した際、講師の先生から「おぼれた漁師」のお話がありました。船が沈没して海へ投げ出され、力尽きて海底に沈んだ時に思わず「南無阿弥陀仏」とお念仏が口から出たら、一瞬身が軽くなって浮き上がり、無事に海岸に着いたというのです。煩悩の海で、俺が俺がと苦しみもがいていても、お念仏申す身をいただくことで、「無量寿のいのちに生きよ」という如来の呼び声に醒まされて、真実の歩みが始まるのです。

ややもすると私たちは仕事や趣味・付き合いの忙しさ等を理由に、暇が出来れば聞法しようとなりがちですが、勿体ないことです。

蓮如上人は「御一代記聞書」の中で「**仏法には、世間のひまをかきて聞くべし。世間のひまを明けて法を聞くべきように思うこと、あさましきことなり。仏法には明日ということはあるまじき**」と申されています。今年も皆さんと一緒にしっかり聞法していきたいと思っています。合掌。

あゆみの会総会開催

2017年12月17日（日）午後２時から、天王寺区の了安寺（海老海住職）をお借りして、あゆみの会総会が、海老海組長、喜左上恵子組長補佐（紹隆寺）同朋の会教導の藤井真隆住職をお招きして、会員18名が参加して開催。

吉田副会長（法山寺）の進行で開会、真宗宗歌斉唱。開会挨拶は浪花博会長（法山寺）。来賓挨拶が海老海組長からいただいた。引き続き総会次第に入り、事業報告と事業計画案を吉田副会長が説明、そして、宮澤会計（即應寺）から会計報告と予算案の説明があり、長野敏夫監査委員（宗恩寺）から監査報告があり、承認。役員の改選では、事務局提案（別項）を、全員で確認し、議事を終了。（2面に続く）

2018～2020　役員紹介

会　長	浪花　博	再任
副会長	細川　克彦	再任
同	吉田　雄彦	再任
同	本持　喜康	再任
相談役	中嶋ひろみ	再任
会　計	宮澤　典男	再任
監　査	長野　敏夫	再任
同	細川　孝子	新任
常任委員	遠藤佑宜子	再任
同	加藤　徳江	新任

副会長の本持は事務局兼任
常任委員は、会期中の任命も。

因縁生起

まずは、おめでとうございます。

釈尊の教えに「縁起法」がある。法話でも中川皓三郎先生や古田和弘先生が話される。

「原因があって結果がある」と世間で言われるが、果たしてそうか。そこに「条件」が異なれば結果は様々に変わる。でも。必要な条件が整っても、それの過不足でまた変わってくるのです。

私たちの日暮も、当たり前のように動いているように見えますが、気が付けばいろいろな人の関わりの中で、今があることに気付かされます。今さらながら、大切なことだと気付かされます。

今年も、よろしくお願いいたします。合掌。

続あゆみの会総会報告

引き続き記念法話は、大阪教区駐在教導の王来王家純也先生から「生死出ずべき道」と題してお話をいただいた。（詳細は別項）これで第1部を終了。第2部は、お斎をいただきながらの懇親会で、挨拶を細川克彦副会長（佛足寺）から。そしてしばし歓談を。半ばで新会員の参加者（浜口優さん、武田圭司さん、正木秀子さん、鈴木滝子さん）から、それぞれ参加しての感想や思っていることを披露していただき、一気に打ち解けた雰囲気になった。最後は喜左上恵子組長補佐から、閉会のご挨拶をいただいて終了した。

王来王家先生の法話をお聞きして

細川　克彦（佛足寺）

「生死出ずべき道」という言葉は、親鸞聖人の妻でいらっしゃった恵信尼さまが、ご息女覚信尼さまに出されたお手紙に書かれた言葉で、親鸞聖人が法然上人のもとを訪ねられた求道の願いを表わしている。一方、私たちは生死（生老病死）の迷いを越え出たいとか、証（さとり）を得たいとか、普段考えているだろうか。

しかし、先生のお寺や門徒宅で、他に楽しいこともいっぱいあるのに、熱心に講師のお話に耳を傾ける人々が集まってきておられる、それはどういうことだろうか。

また、先生が東日本大震災から2年が経って、ある研修会で陸前高田市を訪ねられた時、

ご講師から津波でお寺が流され、ご家族が亡くなられたお話を聞かれた。そして一緒に避難所生活をしていた門徒のおばあさんから「住むところ、食べるものも必要だけれど、手を合わせる場所が欲しい」という言葉を聞いてびっくりされた。そして、そのことの大事さに気付かれ、役所と交渉してプレハブでのお寺を再建されたお話を聞かれた。

『歎異抄第2章』に関東から京都の親鸞聖人の元へいろいろ訪ねに来られたお同行方に対して「あなた方は往生極楽の道を聞きに来られたのでしょう」と確かめておられる。私たちは自覚、無自覚を問わず、浄土を求めているのではないか。「生死出ずべき道」とは往生極楽の道であり、幸せを願う心のさらに根底にある心である。

また、法然上人を讃えておられる和讃に「諸仏方便ときいたり、源空ひじりとしめしつつ　無上の信心おしえてぞ　涅槃のかどをひらきける」とあるが、そこでは証（さと）ったとか、救われたとおっしゃっていない。涅槃の門が開いたと言われる。つまり、ゴールではなく、歩んでいく道が見出されたという歓びを述べておられる。

終わりに先生は、現代人は仰ぐものを持たないけれど、別居しているお子さんやお孫さんのところにお内佛がありますか。もし、無ければ推進員としてハードルは高いですが、壁にかけられる「ご本尊」もありますから、プレゼントされて、毎日、手を合わせることを教えてあげていただきたい。また、「真宗聖典」もお持ちいただきたいと話された。

（今回も、法話の要約を、細川克彦さんに、ご協力いただいてのまとめとなっての発行である。感謝申し上げる。（本）

第１回例会予告

2018年あゆみの会第1回例会は、第2組門徒会との合同研修となっている。今回は、下記の日程で、講師に組内気鋭の友澤秀三住職（南照寺）をお招きして、聞法となる。

ご期待ください。

日時　**2018年４月26日（木）**
　　午後１時30分から
会場　南照寺（天王寺区茶臼山町）
別途、ご案内の予定。